

平成26年度 南アルプス市立若草小学校 第二回自己評価書

平成27年1月6日作成

校長： 森田 亨	記述者・職名： 横小路 豊・教頭
本年度の学校教育目標 ○かしこい子ども ○美しいものに感動する子ども ○思いやりのあるやさしい子ども ○たくましく生きぬく子ども	
本年度の学校経営基本方針 (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。 (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。 (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。 (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。 (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。 (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。	
I 評価方法	
児童，保護者，教職員の3者に対して，アンケート用紙により回答を得た。 質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階になっている。 A：とても・よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない この4段階で，このうちAとBは肯定的なプラス評価であり，CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか，CとDのどちらを選ぶかについては，回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため，A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも，A・B合わせてのプラス傾向，C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が，全体的な傾向をつかみやすくなる。 そこで，各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、 ○「A・B」の割合が大きいほどプラス評価 ○「C・D」の割合が大きいほどマイナス評価 と判断をした。 なお，保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが，これは点数には含めていない。	
II 全体評価	
7月（再掲） 「I 評価方法」で説明した回答のプラス傾向・マイナス傾向で特徴をみると，つぎのような評価になる。 児童のアンケート結果では，14個の質問項目中，10個の項目で，プラス評価が90%以上になっている。	

保護者のアンケート結果では、24個の質問項目中、12個の項目で、プラス評価が80%以上になっている。(うち90%以上は6項目)

教職員のアンケート結果では、30個の質問項目中、27個の項目で、プラス評価が90%以上になっている。

児童と教職員では、ほとんどの項目でプラス評価が90%になっていることがわかる。保護者の評価は、プラス評価が90%以上のものは6項目だが、全体的には70～80%以上の評価がほとんどを占めている。

児童・保護者・教職員とも、すべての項目において、プラス評価がマイナス評価を上回っている。

全体的な傾向は以上のようなものであるが、中にはマイナス評価が目立つ項目もある。児童、保護者、教職員それぞれの回答から見てくるものについて、以下の「Ⅱ 回答者ごとの評価」で考察し、課題を明らかにしていくことにする。(「回答者ごとの評価」は省略)

11月

11月の学校評価では、保護者の評価について、回答対象を全保護者にして実施した。7月までの回答対象はPTA役員だったため46(回答数は43)、これに対し11月の回答対象は全保護者が児童1人1人について回答するため505(回答数は487)になる。

「Ⅰ 評価方法」で説明した回答のプラス傾向・マイナス傾向で特徴をみると、つぎのような評価になる。

児童のアンケート結果では、14個の質問項目中、10個の項目で、プラス評価が90%以上になっている。

質問項目ごとにみると、「9 家庭で宿題や自主学習を合わせて◇◇分(時間は学年による)していますか」で、プラス評価が増えている。

一方、「3 困ったときに相談できる友だちがいますか」、「7 授業中に発言や質問または意見を言うことをしますか」、「10 人と会ったら自分から進んであいさつをしていますか」、「14 あなたは悪いことをしている人を見たら注意しますか」で、マイナス評価が9%以上の傾向がある。

全体としては、7月の時点の結果と大きな違いはない。

保護者のアンケート結果では、24個の質問項目中、15個の項目で、プラス評価が80%以上になっている。(うち90%以上は3項目)

保護者のアンケート結果を質問項目別にみると、回答対象を全保護者に広げたことによって、7月の結果と大きな違いが出たと考えられる点がある。

「2 児童の具体目標『あいさつ』『そうじ』『授業に集中』があることを知っている」、「3 道徳教育に学校生活活動全体で取り組んでいることを知っている」、「4 学校は、保護者や地域との連携を図りながら特色ある教育活動を行っている」のような「知っている」かどうかを問うものについては、マイナス傾向の回答(「知らない」)が増える結果となった。これは、学校に来る機会の多いPTA役員に対し全保護者では「知らない」という人が多いことを示している。

「12 学校は、個に応じた指導で学力向上を図っている」では、プラス傾向が10%増加している。全保護者から回答を得たことで、個に応じた指導を行っていることを理解していただいている保護者が多いことが表れた結果だと考えられる。

それ以外の質問項目については、回答対象を広げても7月の結果と大きな違いは現れていない。

教職員のアンケート結果では、30個の質問項目中、29個の項目で、プラス評価が90%以上になっている。

質問項目ごとにみると、「7 本校では、職員会議が能率的・建設的に運営されている」、「15 私は、家庭学習を定着するために工夫している」の2つが、7月に比べるとプラス傾向が大きくなっていることがわかる。

その他の項目では、7月の傾向と大きな違いはない。

児童と教職員では、ほとんどの項目でプラス評価が90%以上になっていることがわかる。保護者の評価は、プラス評価が90%以上のものは3項目だが、全体的には70～80%以上の評価がほとんどを占めている。

児童・保護者・教職員とも、すべての項目において、プラス評価がマイナス評価を上回っている。

Ⅲ 7月の時点でのまとめ

7月の時点でのアンケート結果の分析から、現状と課題を次のようにまとめた。

「Ⅱ 全体評価」で説明したように、アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、1学期の段階で課題となっていることがある。

それらをまとめると、次のようなことになる。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

授業中に発言や質問、意見を言うことをさらに増やしていきたい。自分の意見を発表して友だちと学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気の学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。

○家庭学習を充実させる。

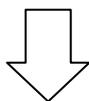
学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大事な働きをしている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力ももめたい。

○学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。

保護者アンケートの結果を見ると、学校で日常行われている教育活動について、知られていないことが多いことに気づく。授業参観や学校開放日、部会、個別懇談も設けているが、年間の数少ない機会の中で知る内容には限度がある。学校だよりや学年・学級だよりなどを通して、学校の教育活動について伝える必要がある。そのことが、学校に対する保護者の理解と協力にもつながっていく。

○職員会議や校内研究を効率的に行う。

効率的な会議の運営をおこなうことで、余裕も生まれる可能性がある。その余裕が充実した教育活動にもつながっていく。担当を中心に会議の方法を見直し、効率的におこなっていく。



以上のような課題から、特に今年度取り組む重点課題を次のようにまとめた。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

○家庭学習を充実させる。

○学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。

○職員会議や校内研究を効率的に行う。

IV 重点課題への取り組み・成果・課題

1 授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

○取組

この課題に対して、さまざまな取り組みがおこなわれた。たとえば、

- ・ 1日に1時間は全員に発言させる授業を行い、発表する経験を積ませている。
- ・ 国語や道徳など、自分の考えや感想を発表しやすい教科で取り組んでいる。
- ・ 校内研究の考えをもとに、まずは全体の前ではなく、席の近くの友だちどうしで質問や意見を伝え合い、それを全体での発表につなげられるようにしてきました。
- ・ 授業中の発言等の機会を増やすために、発言チェックシートを使うことを試みた。児童の意識付けとなっている。
- ・ 1時間の授業の中で、発表や質問をクラス全員ができるように目標をつくって取り組んだ。
- ・ なるべく多くの児童が発言できる機会を増やすように心がけた。
- ・ ペア学習やグループ活動を取り入れ、個々が自分の考えや思ったことを伝え合う、聞き合う機会を増やして、授業を行っている。
- ・ 質問、意見において、学び合いの授業を取り入れる工夫をしてきた。

というような取り組みである。

○成果

アンケート調査の結果の数値としては上がっていないが、校内研究でも「学び合い」をテーマに、意見交換をする時間を多くとるように取り組んでいて、教科・学習内容によっては活発な意見交換がおこなわれている。ただし、まだ自発的・積極的な発言や質問または意見は充分ではない。

○課題

- ・ 高学年になると授業内容も時数もだんだん厳しくなるので、発言が減る傾向がある。校内研究で取り組んでいる学び合いの形をこれからも進めていく必要がある。
- ・ 発言しやすい雰囲気づくり、まちがっても大丈夫ということ子どもたちに理解させるよう教師がさらに技術をみがいていかなければいけないと思う。
- ・ 学校全体で発言を増やすよう、日々の指導や発言しやすいクラスづくりを進めていきたい。

・友だちといっしょに学ぶと楽しい、一緒に学ぶといろいろなことがわかると実感できるような経験を積み重ねていきたい。

2 家庭学習を充実させる。

○取組

この課題に対して、さまざまな取り組みがおこなわれた。たとえば、

- ・全校家庭学習強化週間を設け、学年ごと家庭に呼びかけて協力をしてもらい、意識的に家庭学習に取り組むことをおこなっている。
- ・課題（しゅくだい）をわかりやすく自信のつくものになっている。
- ・家庭学習の充実をめざし、漢字や計算練習の仕方を子どもたちだけでなく（お便りを通じて）保護者にも伝え、親子いっしょに学習に向かえるようにしている。
- ・ある程度の時間は机に向かって勉強できるように宿題を出している。
- ・家庭学習をしてきたノートで良いものはコピーして掲示し、誉めたり、他の子の参考になるようにしたりしている。

等の取り組みである。

○成果

家庭学習については、プラス評価の割合が（6月）76.39%から（11月）79.40%に向上している。

個人差が大きいですが、自主学習をおこなう子どもが増えている。自主学習をすることの大切さを子どもも感じているのだと思う。

○課題

- ・家庭学習を実施する上での取り組み時間（学年×10分）などを学年だより等でも紹介して、家庭学習の大切さをさらに伝えていく必要がある。
- ・低学年から積み重ね家庭学習をする週間を身につけさせたい。
- ・家庭学習の充実には、生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）の見直しをしていただくことも大切である。
- ・家庭により関心の度合いに差があるので、家庭の関心を高めたい。

3 学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。

○取組

学校で行われている教育活動についての情報発信については、次のような取組がおこなわれている。

- ・学級だよりを定期的に出すようにしている
- ・学校で行われている教育活動について、通信で知らせたり、学習プリントを持ち帰り読んだりすることで、家庭に発信することを継続的に取り組んでいる。
- ・お便りを増やし学校の様子を伝えている。

○成果

後期の保護者アンケートの結果を見ると、回答対象をPTA役員から全保護者に広げたことで、保護者が理解していることと理解していないことの差が大きく表れる結果となった。

次の3項目は、前期よりも大きくプラス評価が下がっている。

- ・「2 児童の具体目標『あいさつ』『そうじ』『授業に集中』があることを知っている。」(6月) 79.1%から(11月) 69.2%。
- ・「3 道徳教育に学校生活活動全体で取り組んでいることを知っている。」(6月) 88.4%から(11月) 80.5%。
- ・「4 学校は、保護者や地域との連携を図りながら特色ある教育活動を行っている。」(6月) 95.3%から(11月) 78.6%。

これらは、一人ひとりの子どものようすから理解できることというよりは、学校全体の教育活動に関係したことと言える。これらについては、保護者の理解を示すプラス傾向が、大きく減っている。学校の会議に参加する機会が多いPTA役員の回答に比べ、全保護者には学校全体の教育活動が伝わりにくいことを示している。

一方、プラス傾向の評価が大きく増えたものもある。

- ・「12 学校は、個に応じた指導で学力向上を図っている。」(6月) 59.5%から(11月) 69.4%。これは、子ども個人のようにすから保護者が理解できることである。

「20 学校から送られてくるいろいろな文書などは、よく読んでいる。」(6月) 90.7%、(11月) 89.9%という結果を見ると、保護者は学校からの文書はよく読んでいるので、学校教育全体に関係した内容も含めての情報発信が大切であることがわかる。

○課題

- ・学校全体での取り組みや学校の考え方を郵便やHPなどでしっかりと伝えていくことが大切である。学校に関心をもってもらうことはすなわち児童に関心をもち、協力、理解へとつながっていく。
- ・学校で取り組んでいることを積極的に伝えていくことはとても大切なことだと思うのだが、教材研究や事務処理など多忙な日常を考えるとむずかしさも感じる。
- ・いじめに関する学校の取組について、保護者に伝えていく必要がある。
- ・昨年度までは学校だよりが出されていた。話題の中で具体目標にふれていくとよいと思う。
- ・学校だよりなどを通して、学校が取り組んでいる内容を発信していく必要がある。また、学年だよりにも連絡だけではなく、学年の様子についてももっとアピールする必要がある。
- ・「あいさつ」「そうじ」「授業に集中」「道徳教育に全体で取り組んでいる」等の項目は、PTA総会やその他の時にいつも伝えていたのか疑問。何年か前には確かに合言葉のように伝えられていたが、どうでしょうか。
- ・学校が定期的に行っている「いじめアンケート」や「QU」の実施による個別のケア、学期ごとの児童アンケートの実施と個別のケアについて、学級だより等でピックアップすると、学校が意図的に計画的にきめ細やかな指導を行っていることを理解していただけたと思う。

4 職員会議や校内研究を効率的に行う。

○取組

- ・資料を会議の数日前には配布し目を通しておく。
- ・事前に学年で考えをまとめておく。

○成果

- ・事前に資料に目を通すことで職員の意識も改善されてきた。
- ・職員会議は以前より能率的に運営されていると思う。

○課題

- ・ 今後は話し合う内容について文書での提案にして、必ず目を通し学年の中で意見交換し、考えをまとめておくようにしたい。
- ・ 各担当が全体で検討すべき点をあげておき、事前に学年間で検討しておくことで、効率的にすすめられると思う。
- ・ 会議等の開始時刻をしっかり守ることも大切だと思う。
- ・ 職員の共通理解が図られていることは、指導の徹底にもつながっている。文章など目で見て分かるようにしていくことが大事だと感じた。
- ・ 職員会議に向けての運営委員会は必要ない。
- ・ 職員会議の議題を「討議するもの」と「連絡するもの」に分けてから会議に入るのはどうでしょうか。

V ま と め

後期（11月）の保護者アンケートから、全保護者を対象に回答を得るようにした。その結果、保護者の学校に寄せる期待がより詳しくわかるようになった。

前期（6月）の保護者・児童・教職員のアンケート結果から、重点目標を4つにまとめ、意識して取り組んできた。

- 1 授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。
- 2 家庭学習を充実させる。
- 3 学校で行われている教育活動について、家庭に知らせる量を増やす。
- 4 職員会議や校内研究を効率的に行う。

1については、校内研究のテーマである「学び合い」を授業に取り入れ、友だちどうしで意見交換をすることから、発表に結びつける取り組みを続けている。

2については、課題や宿題を工夫したり強化週間を設けたりして定着をはかる取り組みをしている。

3については、さらにいろいろな通信や時にはメールも使って、情報発信をしていく取組が必要である。

4については、試行錯誤をしながらも成果をあげることができた。

これらのうち、1～3については、家庭の協力も得ながら学校で児童を成長させていくための重要な課題である。学校評価を行いながら、来年度も継続して、改善と向上にむけて努力をしていきたい。